

Since 1873



## 二学期ありがとうございました



四か月にわたる二学期を無事終えることができました。依然コロナ禍でしたが、感染対策を講じて宿泊行事をはじめとするほとんどの活動を行うことができ、子ども達が元気に活動する姿を見ることができました。ひとえに保護者の皆様のおかげと感謝申し上げます。三学期も引き続き、学校教育へのご理解とご協力をお願いいたします。

## じぶんも みんなも しあわせになるために…

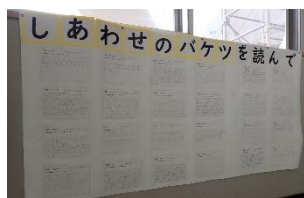
～人権集会 児童会役員による読み聞かせ「しあわせのバケツ」を聞いて～

バスやでん車にのるときは、おとしよりがきたらせきをゆずるとバケツがいっぱいになるとおもいます。おとしよりやきんじょやともだちはもちろん、せんせいにもまいにち「おはようございます」や「ありがとうございます」や「ごめんください」と、それぞれのあいさつをいうと、しあわせのバケツがいっぱいになるとおもいます。＜1年生＞



みんなのいのちは一つしかないけど、おもいあう気もちはいくらでもある。だれかをいじめたりしてもわるぐちをいっても、いいことは一つもない。ぎゃくにわるいことがかえってくるだけ。せかいじゅうは、ことばやたべものもちがうけど、みんなの気もちはどこにいてもおなじ。＜1年生＞

わたしは、「しあわせのバケツ」を聞いて、みんなのバケツをいっぱいにして、みんなにやさしくしようと思いました。きょうから自分のバケツとみんなのバケツをいっぱいにして、きもちよくねられるようにしようと思いました。＜2年生＞



わたしは「しあわせのバケツ」を聞いて、いやなことをしたら自分もあとからこうかいする、ということだと思いました。いつもバケツがいっぱいな人は、みんなにやさしくできる人だと思います。わたしもそんな人になりたいです。わたしも、みんなのバケツをいっぱいにしてあげられる人になりたいです。＜2年生＞

友だちや家族、みづかな人たちのバケツが少なければ少ないほど、バケツをいっぱいにしてしあわせにしたいなあ……。家にかえったらママとパパのバケツをいっぱいにしてあげたい！！そしてみんなといっぱい話して、みんなのことをもっともっと知りたい。たくさん知りたい。いつまでもバケツをいっぱいしてみたい。＜3年生＞



自分は、みんなの「しあわせのバケツ」をいっぱいにできているのかなと思いました。この話を聞いて、みんなのしあわせのバケツをいっぱいになりたいなと思いました。<3年生>

よく妹とけんかをしてしまうとき、バケツはからっぽだと分かりました。ほんたいに、なかなかおりしていっしょにたくさん遊んでいるとき、バケツはいっぱい。ペットのねこと遊んでいるとき、なでているとき、わたしもねこも「しあわせのバケツ」がいっぱいになったり、「幸せな気持ち」でいっぱいになったりすることが分かりました。<4年生>

「しあわせのバケツ」は、人をほめたりよろこばせたり、楽しませたりすると、人のバケツはいっぱいになるのかなと思った。自分のバケツは、楽しみなことがあったり楽しいことがあったり、ほめられたりするといっぱいになるのかなと思った。ただ、いじめをすると、人のバケツを空っぽにしてしまって、自分のバケツも空っぽになってしまって、いじめをしても一つもいいことはないんだぞということが分かった。そして、自分のバケツを大切にしようと思った。<4年生>



この絵本を読んで、たしかに人にありがとうとか言ってもらうと、うれしくなるなと思いました。自分はどんなことをしたらいろんな人のバケツをいっぱいにするのかなと思いました。わたしなら、自分がされてうれしい気持ちになることをしてあげたいです。たとえば、この本にのっていたように「おはよう」とか言ってくれたらしっかり返事をしたり、自分から声をかけたりしたらいいんじゃないかと思いました。いいお話だと思いました。<5年生>



わたしは、自分だけが幸せになるのではなく、友だち、先生、家族みんなが幸せになれば、相手も自分も同じ気持ちになれることがわかりました。これからは、いろんな人と接したりあいさつをしたりして、身近にいる人たちだけじゃない人たちにも、自分の幸せを分け合っていけたらいいなと思いました。幸せを分けるとは、人の気持ちを大切にすることなんだと思いました。<5年生>

人の幸せをとるよりも分けてあげる方が、自分が幸せになる一番の近道だと思った。人に幸せを分けてあげるために、親切にしたり人見知りの子に声をかけてあげたりしようと思った。世界中のみんなが幸せになれるように、まずは身近な人から幸せを分けてあげようと思った。そして毎日、だれかを幸せにできるように努力しようと思った。<6年生>

見えないバケツを傷つけてしまっている人は、人の気持ちを考えられない。けれど、いつか自分に返ってくる。見えないバケツを傷つけてしまっている人は、一人では何もできない。「だれかがやってくれるからいいや」とか「いっしょにアイツをイジメようぜ」など、だれかがいなければ、その人は何もできない。逆に、「みんなであの子と遊んであげよう」とか「あの子を助けてあげよう」と言える人たちは、心も強いしバケツの中も空っぽじゃない人だと思いました。私もだれかを笑顔にしたり助けたりしてあげられるようになりたいです。<6年生>

よいお年をお迎えください。

